

成長願う春の儀式

一字一筆

静岡の今

115

3月3日は「ひな祭り」。住宅事情の変化で自宅におひな様を飾らなくなった家庭もあるが、実家で子どもや孫との思い出をつなぐやさやかな「儀式」を営む祖母の姿は絶えない。



ひな祭りの正式名称は「上巳の節句」。昔は旧暦3月上旬の巳の日に行っていたことに由来する。上巳

は災いが降りかかりやすい「忌み日」とされ、紙やわらで作った人形で体をなでてけがれを移して川や海に流す習慣があった。いつしかひな祭りは、女の子の健やかな成長を願う儀式とし

て、庶民の間に定着した。昨今の静岡県の女の子は、健やかに成長しているのだろうか。

県教育委員会が2019年度に県内の小学校女子1万7284人、中学校女子9403人、高校女子1万2093人を対象に身長と体重を測定し、その平均値を全国平均と比較したデータがある。それによると、中学3年(14歳)女子の身長(156.5センチ)は全国平均と同じだったが、他はすべての学年で身長、体重とも全国平均を下回っている。体重で全国平均と最も差が大きいのは中学1年と高校2年で0.7キログラム差。身長では小学1、5年、中学1年、高校2、3年で0.5センチの差があった。ただ、それ以外の学年では身長、体重とも全国との差は小さく、総じて静岡県の女の子は全国平均並みの成長と言えそうだ。

二十四節気の「啓蟄」(5日)が近い。冬の間、地中に潜んでいた虫やカエルなどがはい出る季節となった。暖かな陽光に誘われて、藤枝市岡部町の史跡「柏屋」のひな祭りを見物した。等身大のおひな様が見物した。等身大のおひな様は有名で、約120センチの大きさは県の小学2年生女子の平均身長とほぼ同じ。県内の女の子すべての、さらなる成長を見守っているようだった。

(前静岡県監査委員・富永久雄)

等身大のおひな様を見つめる女の子―藤枝市、全日写真・村越敏治さん撮影